

私たちが高校を卒業する頃でしたか、いわゆるバブル期でした。仕事は山ほどあって、誰もが潤っていたような印象があります。私などはその頃モデルの仕事をしていました。そうです、こんなんでも、それができるほどに、たいていモデル（笑）の時期だったのです（企業が潤っていたから）。いや、もちろん素晴らしいモデルさんもいらっしやいましたよ！

私ごときでも、クラブに行くのにお財布を持っていったことは、なかったような気がします（笑）。お金って、そこらへんの誰かが払う、みたいな印象でした。

二〇代前半からバンドをやったりしてたのですが、レーベルにもお金があったので、みんなが海外レコーディングができて、レコードやCDもたくさん売れました。河口湖などのリゾート地で、シングル二曲録音するのに一週間以上滞在してゆっくりやりたりしていました。そんなに結果が出なくても、首を切られることもなく、音が熟成するまで育ててくれて、めいっばいのプロモーション期間がもらえました。なんとなく、一生こんな感じが続くのかしら、みたいに思っていましたから。

そんな風に二〇代前半を過ごしながら、バブル崩壊を経験することになります。そ



絵・江口修平

「OKバブリー！」だったあの時代の事

YOU

の光景は、まさに崩壊という言葉で言い表すより他ありませんでした。私たちはいきなり降ろされたシャッターの前でボー然とするしかありませんでした。頼りにしていた大人たちは、借金にのみ込まれ、存在すらわからない人もたくさんいました。売れないバンドはレーベルをなくし、バラバラになるしかありませんでした。当時、筋肉少女帯の大槻ケンヂ君と環七沿いのバーで、ボー然と会話していたのを覚えていますが、「僕たちが当たり前だと思っていた世界は、ただの飽和状態だったんだね」と。ギリギリ大人の手前で、ギリギリ生き残った私たちだったのです。それでもなお東京の土地価格の高騰などはとままることも知らず、当時目黒区の端っこの野ざらしの駐車場が月額七万円だったのをまだ覚えています（笑）。

そんな時期を過ごしているので、なんでしよう、お金、怖いです（笑）。必要なので、大事にはしますが、たいていそれが原因で、人が変わったたり、もめたり、疎遠になったりするので。その辺で丸裸になることより、お金のことが全然苦手ですね（笑）。

結論、お金よ、君は癖が強いんじゃない！（千鳥のノブさんの言葉より、引用させていただきます）

YOU●東京都生まれ。1988年「FAIRCHILD」のボーカルとしてデビュー。バンド解散後TVバラエティーを中心に活動。2004年初の本格的映画出演作「誰も知らない」（是枝裕和監督）にて第78回キネマ旬報助演女優賞を受賞。その後は映画「THE 有頂天ホテル」（三谷幸喜監督）や、TVドラマ「ヒモメン」（テレビ朝日）などに出演。現在はバラエティー番組「セブンルール」（フジテレビ系）等に出演中のほか、本年11月スタートの連続テレビ小説「カムカムエヴリバディ」（NHK）にも出演が決定している。

